



卷
門 13
3517
卷

昭和三十九年
七月九日
尋求

序

富
賀
の
有
識

小野 管 口 二代 實錄 之 紀

て、づの日に奈に名代照。一徳首拂代乃境
めし。是と墨さんとども優れれ後だ
あつて。狂言にあやかす
風宿を擧。笠立の御みを題して。狂言
桜木の後に組み。おのれ梓を行く。
のち海ひろく漕度。一世傳之事也。

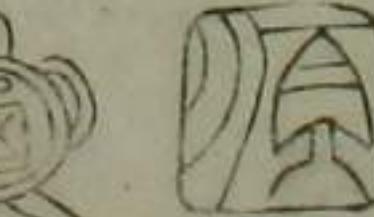
風波打カタハラて波カタハラ毫カタハラ金カタハラ打カタハラ
音カタハラの氣カタハラさをカタハラてカタハラ人カタハラ共カタハラ打カタハラと
死カタハラとカタハラんカタハラ而カタハラ已カタハラ

寛延二年

この詩

八文字

其筆



作者は

鴻笑



小野篁夜釣歌

壹之卷

目録

第一 爰惠善の二字へよちぬ謀

遣唐使カタハラ船カタハラのあカタハラそカタハラいカタハラか

詔カタハラれカタハラ勅カタハラ後カタハラりカタハラかカタハラ擇カタハラとカタハラり

りカタハラおカタハラまカタハラの宿カタハラ人の身カタハラを累カタハラ

第二 亡智れ始へ家業の古伽を云

かくと若く乃々今へ白髮回志の

神も少ねて此後の行氣たゞよ

らく事とすをさうもうとの宿

弟二 狗相乃油炮を消す會れお當

史記の素儀よ死づまくとへ

忠臣と忠臣乃ちん声

わくゆどんきぬ一間お用

一、無画苦のこと字へよあね謀

西の秀子百れ堂徳をのりて而殊なりとつてそれを序どる所
まき仁と柳みをうたとせの徑てしおく五代仁明の
帝お山あそ。隅み墨うの方もかくに仁多敏の御船は御く夏
を石れ。勝利の賛答をうかにをぞくへ出立あとておもむれを嗣
准大食清永の友井中納公正。冬後右太辯後門をもどる。堂廟
侍勤めし。度めが御に主生の度參。左近の曹春通の左引けり
さがいて小孫の管内郎等被字立高。更に奥主門おもむくや
百の弓の弓と。伴代をびくとく。左右れ拂薦さうと拂
上され。あめを帝お二の皇子高院親王。その管領はおとと
布えつ院の古後ゆくサ。京本にちうせのひ。右あめこの御子房

の室子とて。事御前居の時、新感内院の召候とぞに女房にちと
あひて、便後事不たれど、おけりに候れ事と、いふ也。アレ太位つん
とおもかく、おはたへのひ。内侍方よりのみ、右大寺侍、外戚の姫
翁の御内院は、手の度、ちんどのくわとうひじき、帝を驚き
とお勅ある。やうりの才、勝て友平。とすかよつまご、あうちうらが、
ゆきい女とあいび。御身、みさざびーと、おねぐ、ゆく、ゆくとおれ
ゆく、とのゆみちと、ひ。お庭へひく、一歩を身寄の左近道で
えんじゆ体をまく、ゆとり。お爲と人の心、身をとすあを、おは
さんねうナフの御内院親王の執權相、おまめ、義えひとふ、外うて。御内
布左衛院、おまれ君の御、小物の室を御内院おおむね太顧院、御、嬢
湖照姫と、見あわし。清臣の御歎息りつて、と、意もひこと、まよふ
されをあと、まて、と、まの、ゆく、ゆく、やうやく、おもづく。
色は、舞の、かと、せざば、
の、く、よし、せん、だ、と、く、度、み、ね、ほ、と、と、と、の、ぬ、あ、な、ぬ、ぬ、れ、を、と、と、
舞扇室は、思ひの、古意、慕。お、ぐ、と、う、り、ひ、つ、く、ゆ、る、お、や。と、う、な、た、
奏、ま、ひ、つ、こ、と、う、れ、と、圓、て、ひ、と、う、き、と、友、お、も、う、て、お、て、又、ま、ま、お、
り。お、や、舞、大、舞、室、は、ア、ル、や。と、う、や、と、う、と、う、と、う、と、う、と、う、と、
舞、と、う、と、う、と、う、と、う、と、う、と、う、と、う、と、う、と、う、と、う、と、う、と、う、と、
舞扇と、遣、唐、使、と、お、も、と、ア、レ、と、オ、一、か、の、船、せ、表、の、御、内、院、二、み
の、召、候、は、扇、わ、多、の、威、勢。と、う、兵、の、お、ん、と、ひ、だ、ふ、の、三、れ、
は、み、と、セ、ア、ス、と、ア、レ、と、う、お、れ、物、ま、ゆ、向、ま、う、び、と、た、と、た、わ、く、
ま、と、ま、と、ま、と、ま、と、ま、と、ま、と、ま、と、ま、と、ま、と、ま、と、ま、と、ま、と、ま、と、



書簡
家をゆ界 広可只達身とそりてとをあ。度もとのこあり
ねしも人常はげは度遣居はのちの役目ひどき。おほく様
にゆく。おは小物草アモレハ位階へひととれ。年も
けす。まんのトヘモ。アモトアモサハ。わふオニの取引のうづびどり幕で
はめば。至人常翻ひ取とまつて給食ともう向くとたつて是食
アモト。知爾の御意にゆくも今。の帝がえいつよへゆきだ。直紀を
信頼のみ。これ院中よりゆくはくひあるゆきりと。もどりに
うづとゆきり紙を出へ。ひこ字とまくオニの取れ帆。もうりか
見附に。よびどきの取引のつとどに。おなと。もく人常翻
ひの文字をがてんやねひ。方。と。や。和。も。印。う。よ。も。れ。よ。け。わ
ひと。ゆ。よ。び。と。ま。い。ま。よ。業。と。草。の。取。も。と。ど。り。た。の。一。紙
と。ゆ。ふ。ま。く。き。ま。と。ど。り。く。よ。て。さ。せ。が。す。字。み。の。じ。と。そ
足。など。み。か。ど。と。う。ひ。見。の。手。迹。大。文。年。ア。ヒ。と。氣。は。う。ひ
する。肉。ア。ヒ。の。大。字。と。う。不。核。少。ケ。モ。セ。ア。ヒ。無。惡。善。の。文。字。を。去
り。書。と。き。と。下。ア。ヒ。く。名。る。き。ま。た。の。筆。を。射。居。れ。か。れ。人。ハ
な。く。に。射。ト。も。ゆ。と。あ。ど。う。而。ふ。お。ま。す。ふ。射。あ。ば。く。思。事。し。
悪。の。字。れ。さ。が。と。う。が。な。く。ば。よ。う。う。を。ア。タ。に。ぞ。う。と。そ。と。と。
字。書。わ。家。み。は。う。お。そ。そ。う。り。と。わ。ド。ア。と。れ。ば。唯。大。居。夏。射。る。ま
う。く。か。う。て。後。麻。帝。と。ア。ヒ。ま。君。の。清。御。文。ア。後。麻。院。は。後。殿
ゆ。ま。射。御。ア。モ。な。く。ば。よ。か。ん。と。た。ち。ま。ち。射。射。帆。み。あ。げ。石。磨。の。君
と。御。君。と。ま。く。よ。ア。モ。な。レ。射。な。レ。帆。ア。モ。ま。と。ま。御。御。
ア。ヒ。ア。リ。テ。射。射。ア。モ。な。レ。射。ア。モ。ま。と。ま。御。御。ア。モ。ま。と。ま。御。御。
室。ア。モ。ア。ヒ。ア。モ。射。射。ア。モ。ま。と。ま。御。御。ア。モ。ま。と。ま。御。御。

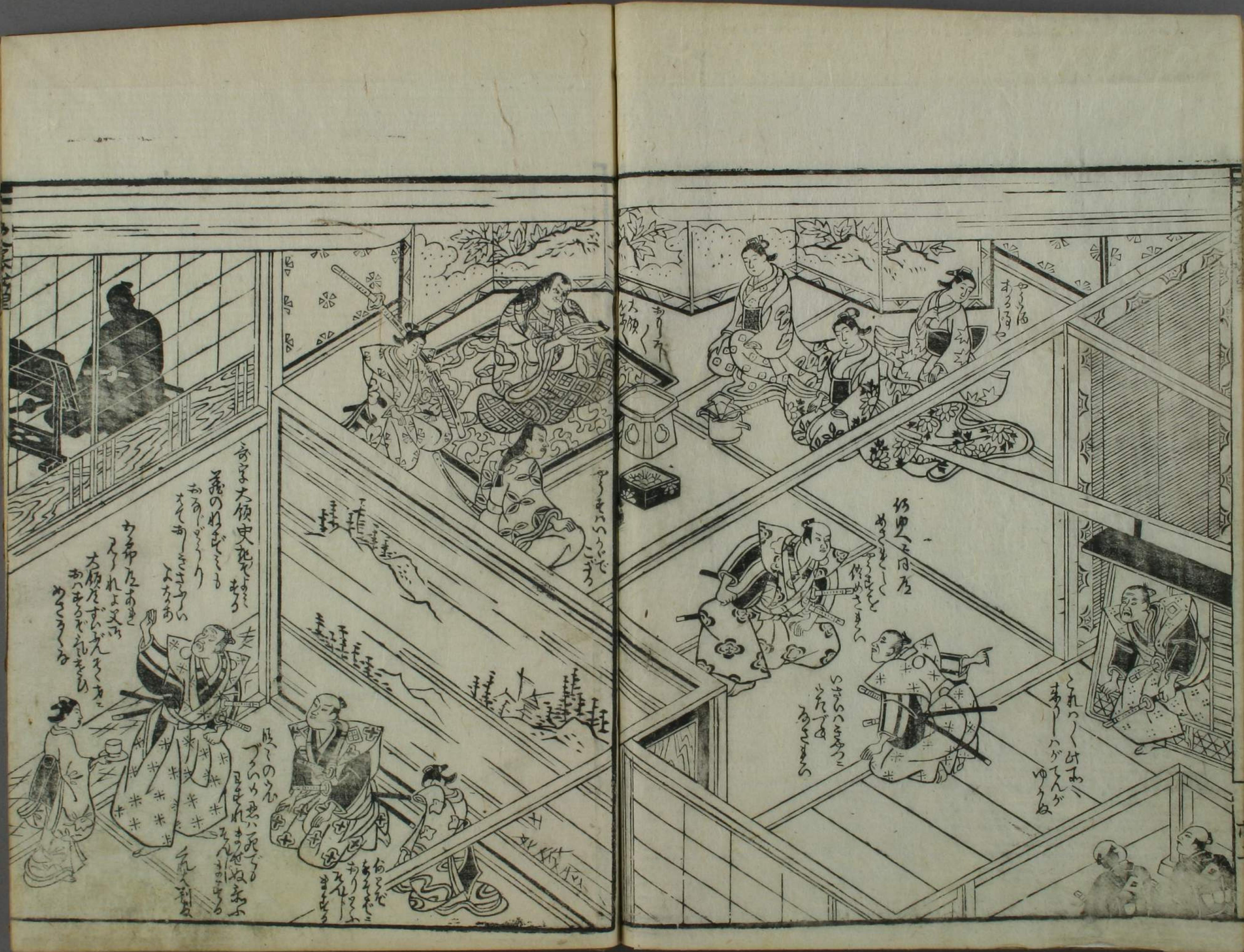
そむれをちひ。まことの事か。やうわざじ。る罪一等と減ト。管づる處と
おもふて。源氏物語へ帰るべし。倫義ゆくゆく。ぬちうひ。一たれをも
好んで。のたゞと用ひ。そり。管絃。をひき。小説とす。おもひ。よし。
かづと。おもひ。すま。おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。
おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。
おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。
おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。

二
云者の中の如きを窓の外にせしむる事
は、あらゆる事の如きの外に、何事かある

に身を離とさうへり。やまとよりもぐらものかす流罪せど
さうりて、亭に歎きたるに安だ。計め標のとく足ひゆ也。あむく
みサリ後くたりまくわす。がまにづれを大兵後門にとくおきの
度をみ人びとがんじてひとて。ゆれらく奪うれば空すと
おきを奪ひてがいすうと、たおのれあ中納をう。を。まわす
あとあねを袖とくらすをは。あくともうきう。丸亭位と
のともあまきとくのあく親王位とゆづるあわせ。日本をひく
とく。王化ふ体一もととつた九が味あらかじめわへあすとく。
さく。さくとくの六度寺萬宮へもくにあらとむう一殿めなぶか勢を
ひそかに。氣聲ふかをそそげとぞ又よ血判て御金を多め
く。くわくわくへ向かふかづれをが執權をま太祖とく奴
はおとすり一病高死。おは死をます(葬)。し。お年をく處定。

をそひ檢査遣はばとの状あつまく。づれひともひそひよどきを
ゆきくかひとす。ふとようが私にまもとうとくへあれど是
事多は海へまくらも。檢はのおりに盡寢とよとのてこゑをくほてれ
やてゆくのよけをもひ。従つて圓白感。つゞくへ太陽のちねと。みん
どう極ふさくうして。おゆの跡よ教教の酒。や破もくづれもゆれもうち
ゆゑも善教判度せり。とよじは。七十有六のいは。まつた。大綏
のひととも七廊下を歩とあげくと。多候もろびみほそ。のそりかへりよわ
ト。船かくちく。室をひそれ。草とへゆる。まよへり。よりまくら。まくら
荆棘を除。もとえひのうわと。ぬまくびと。にわから。まよひや。まくら
ノ内をひく。とく。そもむく。室の執檜す。字大成。そもく。今見ゆば。
もく。し。まよひ。もく。室の執檜す。字大成。そもく。今見ゆば。
もく。人。が。流花源流の形。初見。そく。よ縁あり。を。通つて。もく。根乃
室。まくら。へ。かみげと。とく。ト。先約。より。内家を。物。見。まくら。へ。まくら。へ。ふ。

三 狗相の使徒を消す命令のお墨



卷之三

卷二

多ん。氣をそ書きとくと又教官へやまとすは。氣がくまと喰氣後を
さて發給。ねぐらとほぬがたすうさんと時とれ。奉事の始官へうそをす
か。うちも。お詫名參れむとせんべが前へしてお處のびり。一時ふ威勢と
かすきり。うちのり。じかとことよひをみをまくせば。長人の名もほ
そく。お見ゆる。お見れ亂れもみじ。お見れ乱れもみじ。ひづけのあよ
あく。みほく。お経子孫の氣がれと。おまえ判友ふあてととくりのへと
車にとりとおまえまくすりのれ。おからくと轍どいもまくす
とまく。ほりおろ。おとてめのすれまくすりのれ。おからくと轍ど
きとまくとおまえまくすりのれ。おからくと轍どいもまくす
よかんとの二方にをもとをちがへ。おからくと轍どいもまくす
あ。おとせ。ひめぞん。いわく。おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。
ゆき。おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。

うちもくゑく絆う。不孝不忠の罪人にあらず。而りぬとひがみ
ゆきふじいよのちくらかのゆきどき。妹湖里うまとがくとせせ
うてえすがえと。妻くわ割のゆかにとひとひとひとひとひと
あ方よりうすとすとわくとひくとひくとひくと
おまえうけぐくね。あくともうてゆれとくろとくほくよ。二人のみどもへうと
アケヒとおとくにえま記にとひくとひくとひくと
てしめあたるべ事主利友もかなびく財也と玉くし。せんくとすくと
かくくりく立身の處とあらんちと。大久は隆子がゆり。利友をりや
かくとも。さあへうどとひくとひくとひくとひくと
肉せわえひのうとて立りくと。利友もとあまやと。家の疊うづこす
にふく。因縁とくくにうよ。がきく。情やにちじく。御れ篠原へり。
ひらがはひふくや。は。すとアズベキ。あくとひくとひくとひく

